

6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者の住まい

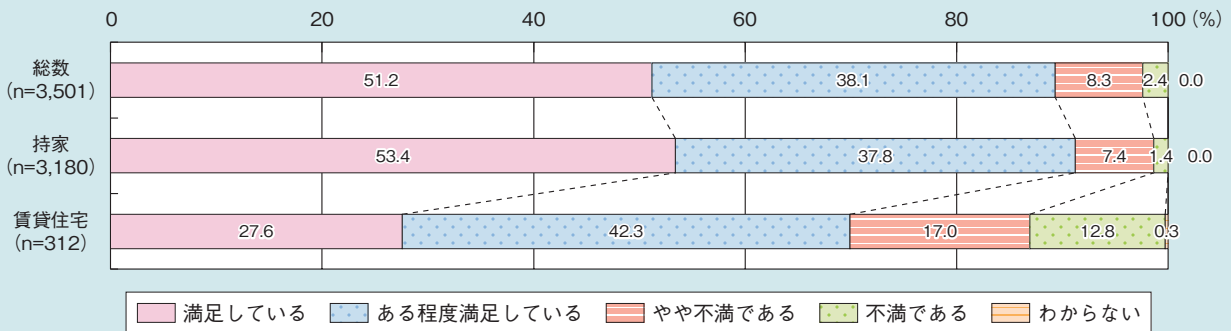
ア 高齢者の9割は現在の住居に満足しており、体が弱っても自宅に留まりたい人が多い

60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で89.3%、持家で91.2%、賃貸住宅で69.9%となっている（図1-2-6-1）。

さらに、同調査で現在住んでいる住宅について不満な点を見ると、不満の理由は「住宅が古くなったりいたんだりしている」が16.8%、以下、「庭の手入れが大変」が10.5%、「住宅の構造や設備が使いにくい」が7.0%となっているが、「特に不満はない」が61.4%となっている。

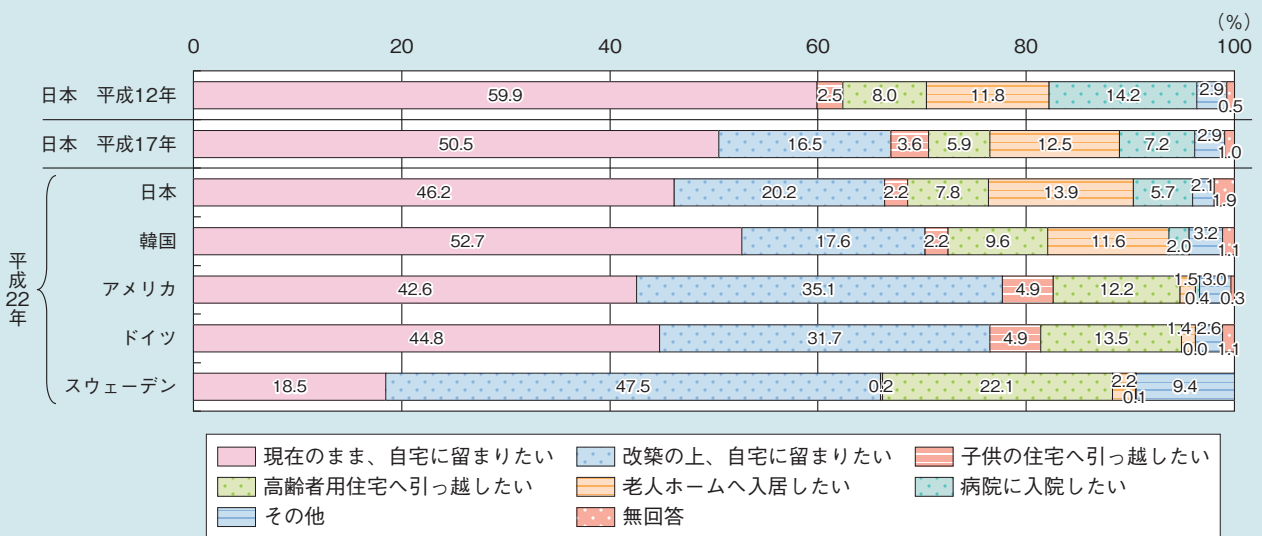
60歳以上の高齢者が、身体が虚弱化したときに望む居住形態についてみてみると、「自宅に留まりたい」（「現在のまま、自宅に留まりたい」と「改築の上、自宅に留まりたい」の合

図1-2-6-1 現在の住居に関する満足度



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年）
 (注1) 対象は、全国60歳以上の男女
 (注2) 持家と賃貸住宅の回答者数と総数の差 (n=9) は給与社宅等。

図1-2-6-2 虚弱化したときに望む居住形態



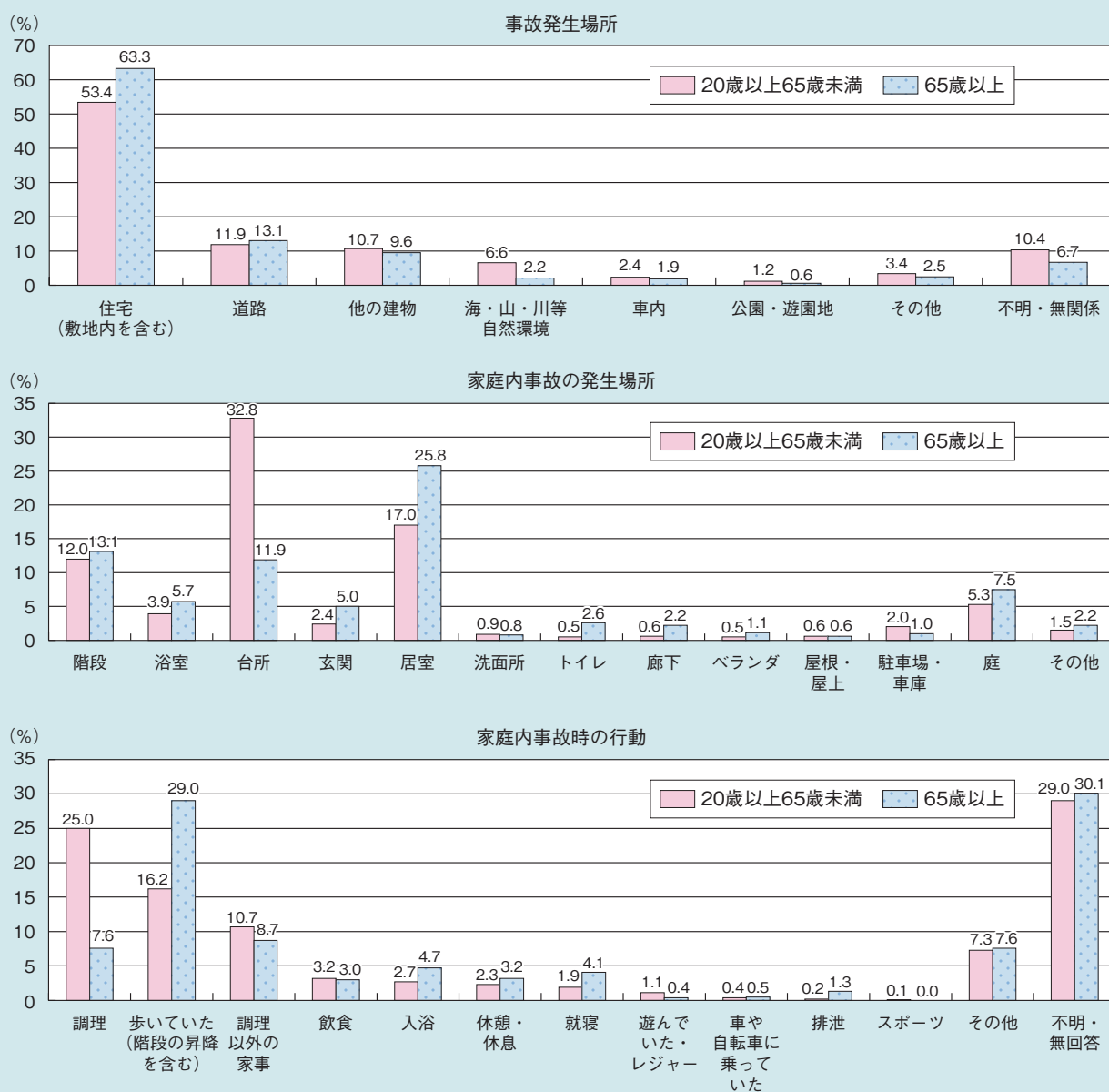
資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成12年・平成17年・平成22年）
 (注) 対象は、60歳以上の男女

計)とする人が約3分の2となっているが、韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較すると、スウェーデンに次いで低い数字となっている。また、自宅に留まりたい人の中でも「改築の上」で留まりたいとする人の割合は、日本は韓国に次いで低いが、5年前と比較するとやや上昇している(図1-2-6-2)。

イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の行動は「歩いていた(階段の昇降を含む)」

全国20の危害情報収集協力病院から提供された事故情報では、65歳以上高齢者の方が20歳以上65歳未満の人より住宅内での事故発生の割合が高く、65歳以上高齢者の事故時の場所別・行動別にみると、場所では、「居室」25.8%(1,072件)、「階段」13.1%(543件)、「台

図1-2-6-3 高齢者の家庭内事故



資料：国民生活センター「病院危害情報からみた高齢者の家庭内事故」(平成20年)
 ※家庭内事故の発生場所については、不明・無回答を除く。

所」11.9%（495件）が多く、行動では、「歩いていた（階段の昇降を含む）」が最も多く29.0%と3割近くを占める（図1-2-6-3）。

(2) 高齢者の居住環境

60歳以上の人々が地域で不便に思っていることをみると、平成22（2010）年では、不便な点が「特になし」という人が約6割（60.3%）であるが、不便に感じている事柄としては、「日常の買い物に不便」（17.1%）が最も多く、次いで「医院や病院への通院に不便」（12.5%）、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」（11.7%）となっている（図1-2-6-4）。

(3) 高齢者の安全・安心

ア 高齢運転者による交通事故件数が高い水準で推移

65歳以上の高齢者の交通事故死者数をみると、平成23（2011）年は2,262人で前年より

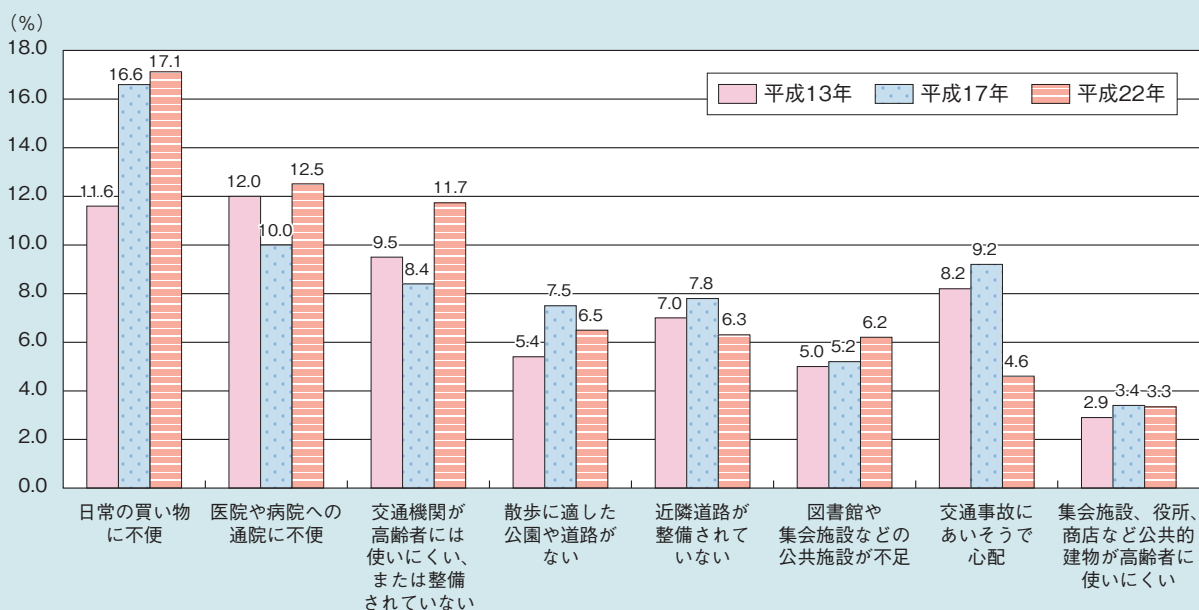
7.7%減少した。しかし、交通事故死者数全体に占める65歳以上の割合は49.0%と半数近くを占めている（図1-2-6-5）。

イ 振り込め詐欺の被害が依然として深刻

犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、刑法犯被害認知件数でみると、全刑法犯被害認知件数が戦後最多を記録した平成14（2002）年に22万5,095件となり、ピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあり、22（2010）年は13万7,882件であった（図1-2-6-6）。

振り込め詐欺（オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺及び還付金等詐欺の総称）のうち、特に高齢者の被害が多いオレオレ詐欺の平成23（2011）年の認知件数は4,656件と前年より5.4%増加した（表1-2-6-7）。また、親族、警察官等を装ってキャッシュカードを直接受け取る手口のオレオレ詐欺におけるATMからの引出（窃取）額は約17億円であり、これを加えた振り込め詐欺の実質的な被害総額は

図1-2-6-4 地域における不便な点（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）
 （注）対象は、全国60歳以上の男女